



## 年頭のご挨拶

会長 三浦 修

明けましておめでとうございます。山口県病院協会の会員ならびに病院職員の皆様も、それぞれ新たな思いで新しい年をお迎えのことと存じます。

一昨年初めから続いている新型コロナウイルス感染の波は、私達の周りにも繰り返し押し寄せながら、ワクチン接種事業の進展や、種々の治療手段を効率的に使うことで、やや沈静化した感があります。長いパンデミックの嵐の中で、私たちは多くのことを学ぶことができました。健康危機管理意識の重要性を否応なしに目の前に突き付けられ、行政や他の医療機関との連携や協力体制を含めて、それぞれの立場で意識改革が出来たものと思います。

さて、令和3年5月に医療法の一部を改正する法律が公布されました。詳細は省きますが、この中で、外来医療機能の明確化、連携に関しては、患者の大病院志向を少しでも抑え、待ち時間や勤務医の外来負担の課題解決を図ろうとするもので、医師の働き方改革に寄与すると謳っています。大病院の外来は、紹介患者を中心に専門外来としての機能を明確化し、診療所や中小の病院にはかかりつけ医機能をより強化し、紹介と逆紹介をスムーズに推し進め、外来機能の分化と連携を進めていくというものです。

平成25年8月の日本医師会・四病院団体協議会合同提言の中で、「かかりつけ医」と「かかりつけ医機能」の定義づけがなされています。医療の専門性と常に患者に寄り添う「かかりつけ医」としての役割とは決して相反するものではなく、ある局面では両立させるべきものだと思います。医療機能の分化・強化、連携を進めるとすれば、一般市民にしっかりと情報提供しつつ、地域における医療機関それぞれの機能、役割を広く理解、認識してもらう必要があります。

2024年に向けて各病院ともに、医師の働き方改革への対応を進めていることと思いますが、同年4月以降は、年960時間超の時間外・休日労働が可能となるのは、都道府県知事の指定を受けた医療機関で指定に係る業務に従事する医師（連携B、B、C水準の適応医師）のみとなります。今後、病院ごとの診療体制、救急患者受け入れ状況などを考慮しつつ、宿日直許可申請を含めた対策が必要であり、地域医療を継続して行くために何をしておくべきかが大きな課題となります。

次期診療報酬改定に向けての動きの中で、国は新型コロナウイルス感染症などの新興感染症等にも対応できる効率的・効果的で質の高い医療提供体制の構築を重点課題としています。その一方で、新型コロナウイルス感染症対策に伴う種々の制限を緩和し、56兆円もの財政支出で景気の回復を図る旨公表しました。韓国や東南アジア、欧州など感染者増、重症者増で医療が再逼迫している国々と同じ轍を踏まぬよう、国民に対して感染防止対策を継続しつつ、節度ある日常生活、良識ある行動を願わずにはられません。

今年が、皆様にとりまして平穏で意義深く充実した一年になりますよう心より祈念申し上げます。

## CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
関係団体挨拶	2～3 ページ
協会役員コーナー	4 ページ
病院スタッフコーナー	5～6 ページ
部会コーナー	7 ページ
諸会議報告	7 ページ
お知らせコーナー	8 ページ

## 年頭所感

### 新たな生命の芽吹き



山口大学 医学部長  
山口大学大学院医学系研究科長

篠田 晃

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症対応を伴う医療現場で大変な御苦勞を重ねて来られたことと拝察しております。皆様の御尽力と献身に心から敬意と感謝を申し上げます。漸く昨年夏頃からワクチン接種が広がり始め、オリンピック後にピークを迎えた感染拡大も急激な減少に転じ始めました。オミクロン株の拡大兆候も窺われますが、今後は変動を伴いながらも収束に向かうことを期待しつつ、平穩で新たな光差す令和4年になることを願っております。

山口大学医学部と附属病院でも、一昨年の4月当初から講義・実習を遅らせ、新型コロナウイルス感染症対応チームとして「CoviCoM（医学部）」と「YUMECO（附属病院）」を設置して、授業・会議のリモートシステム、サーモ測定器、PCR検査体制、新型コロナウイルス感染病床体制、ワクチン接種等を整備し対応してまいりました。一方、診療にも学生実習や講義、研究にも抜かりないように、「三密回避」「衛生管理」「健康管理」をして感染者をゼロに保ちながら徐々に再開してきたところです。ただ、今の2年生は入学式も取りやめ、本学吉田キャンパスへの入構もできず、医学部の先生も先輩も知らず、同級生さえほとんど会ったことがなく、リモートで課題を出され、試験が行われ、バーチャルキャンパスの中で生活をしてきました。昨年春から漸く小串キャンパスに足を踏み入れ、対面で互いの顔と名前を確認し合い、学生同士のコミュニケーションが成立し始めた次第です。

しかし振り回されてばかりではられません。医学部も病院も最高学府として、最終砦にして最高医療機関として毅然と前を向いて進んでいかなければいけません。独創的で、インパクトがあり、発展性の高い革新的研究課題を発掘し育成するFOCSプロジェクトを立ち上げ、山口大学発のオリジナル研究に勇気をもって挑戦して、発見し、はぐくみ、かたちにする空気を醸成しているところでもあります。ウイルス治療薬やワクチン開発といった基礎医学研究がいかに重要であるか思い知らされました。新型コロナウイルスだけではなく、将来遭遇する未知なる微生物感染対策も踏まえた本格的な「感染症学」の教育を担う体制づくりが必要と考えます。一方で、AIシステム医学・医療研究教育センター（AISMEC）によるデータサイエンスとシステムバイオロジーの有機的发展と附属病院のAI化の実現に向けて電子カルテの更新が進展しております。社会連携も、阿知須地区高齢者を対象に認知症や介護状態をAIで解析する地域コホート研究が山口大学と山口県と山口市、それに島津製作所と花王と協同乳業の6者間で始動しております。さらに臨床研究棟や病棟の改修工事、再整備も始まりました。

また5年前から山口大学医学部では、外科志向性の強化を図るため、医学科の全外科系診療科にご協力いただき、解剖学実習内に時間をとり、2年生から基本臨床外科手技の早期教育を開始して、大変好評を博しております。

す。4年前からは卒後医師のリカレント教育として、特に若手医師の手術手技向上を目指したご遺体を活用しての臨床外科研修（CCST）も始まりました。年々ニーズは増大し、昨年度は県内から100名超の若手医師が参加しました。コロナ禍に対応した文部科学省のデジタル活用教育高度化事業に採用され、仮想現実空間内での解剖・外科教育のDXコンテンツの開発・導入準備も始まっております。外科学教育の拡充により、将来、数多くの腕のいい外科医を輩出し、外科の強い医学部として益々の信用や評判を獲得できれば、多くの患者さんが来院し、卒業生も率先して山口大学での研修を望み、他県からも多くの優秀な若手医師が集まるのではないかと期待しています。

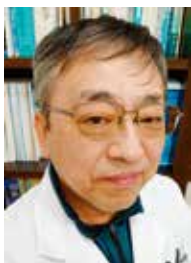
PCR検査やワクチン接種の普及もあり、漸く新型コロナ感染も収束傾向になりましたが、世界を見渡すとまだまだ予断を許しません。楽観と油断は常に危機感と背中合わせでいる気がします。今年の「辛丑（かのとうし）」は辛い時期を凌ぎ、次に来る運気の前段階の年だったのかもしれませんが。今年は「壬寅（みずのえとら）」。厳しい冬の後に訪れる春の陽気に新たな生命が芽吹き、胎動を感じ、活力溢れる年になるようです。最後になりましたが、今年が、皆様にとって充実感と希望に満ちた輝ける年となり、平穏で健やかに一年を過ごされますことをお祈り申し上げます。





## 協会役員コーナー

### 精神科病院における「いわゆる社会的入院」について



医療法人山陽会  
長門一ノ宮病院  
理事長・病院長

稲野 秀

明けましておめでとうございます。

私は令和元年4月から、山口県精神科病院協会会長を拝命したのと同時に、身体科病院との連携を深めるために当協会にも加入させていただきました。

特に何かの役割を果たすでもなく、理事会などにただ出席して諸先輩方のお話を拝聴しているばかりです。この紙面をお借りして、精神科病院の入院医療で特に問題視されがちで、「いわゆる社会的入院」についてお話をさせていただこうと思います。

これは大変に微妙な問題であり、どのように書こうともいろいろなご批判を受けるだろうことは覚悟しています。ごく単純化して言えば、「精神症状はかなり軽快しており、受け入れ条件が整えば退院可能」な患者さんが長期入院となっているとのご意見です。

平成15年の調査で「受け入れ条件」が定義されていなかったことがまず問題です。次に、精神科病床の定義は、外国と我が国とでは異なり、我が国の病床数は他の先進国のそれよりも過大にカウントされています。医療保険制度や医療資源が異なる国々では入院継続の容易さが異なる（入院したくてもできない国もあるでしょう）ことや、精神疾患の特性上、自身の精神症状を正しく認識できない場合があり、それ故に重症の方ほど自分には在宅が可能だと考え、そう望む場合があることから、入院処遇が不当と考える外部の人（たぶん善意の人なのでしょう）がいらっしやる。そもそも、入院は悪で施設ならよりマシ、在宅が最善であると本当に言えるのでしょうか…

おめでたい時節に愚痴をこぼして大変失礼いたしました。今年も腐らず挫けず少しでも患者さんが幸せに過ごせますよう頑張ろうと思います。

### 年頭のご挨拶



光市立光総合病院

病院長 桑田 憲幸

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては本年を健やかに迎えのことと存じます。

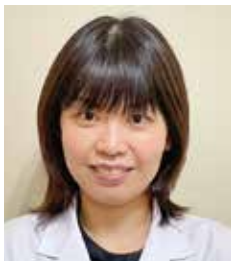
昨年も一昨年と同じように新型コロナウイルス感染症に振り回された年でございます。周南医療圏でも一昨年の暮れより新型コロナウイルス感染症の第3波が襲来し、当院では入院協力機関として感染者の受け入れ、そして宿泊施設やクラスター発生施設への看護師の派遣など昨年早々からいろいろな対応に追われました。4月に入って一旦通常の病棟編成に戻した途端に変異ウイルスの流行による5月をピークにする第4波が襲来しました。第3波と比べ軽症や中等症Ⅰの方が短期間で中等症Ⅱまた重症に移行する今までにはない重篤な経過をたどる高齢の感染者が増え、それが少し落ち着いたと思えた7月頃よりまた患者数が増え8月には山口県が経験したことのないステージ4まで感染者が急増しました。この第5波は変異ウイルスのデルタ株によるもので今までと違い子供を含む若年者の感染者が多く、逆に高齢者の感染者が減少してきました。新型コロナウイルス感染症は一昨年と昨年、そして昨年の中でも各波の間でそれぞれ全く違う様相のものとなりました。その原因は一方では変異株の出現が感染を急激に増やし、重症化しやすくなったこと、その一方ではコロナワクチンの接種が進んだこと、そしてレムデシビルや抗体カクテル療法（中和抗体薬）などの治療薬の出現だと思えます。

新型コロナウイルスに対しての武器（コロナウイルスに対する薬物療法）と盾（ワクチン接種）を与えられた私たち社会が今年こそ新型コロナウイルスに打ち勝ち、コロナ以前の社会活動に戻れることを願います。

本年もよろしくお願いたします。

## 病院スタッフコーナー

### 時代の流れに適応を



医療法人 岩国病院  
放射線技師

岡 恵里

新年明けましておめでとうございます。

近年、新型コロナウイルスに仕事、私生活ともに制限される日々を送っていますが、今年こそ終息に向かい、日常をとり戻すことを願っています。

当院は名勝錦帯橋近くに位置し、病床数60床、内科・消化器内科・神経内科・産婦人科を専門とする地域密着型の病院です。私の勤続年数も10数年になり、入職した頃から今までのことを思い返せば、仕事内容も大きく変わりました。

一番大きく変わったのはアナログからのデジタルへの移行だと思います。今はパソコンにIDを打ち込むだけで短時間で画像取得が可能ですが、フィルム当時はまずどの場所にあるのかを調べることからはじめ、膨大な量のフィルムの中から探していました。誰かがどこかに持ち運びそのままにしたものを院内中探した時もありましたが、今はそ

んなことは皆無です。手間がなくなったうえ、保管場所も確保しなくてよくなり、労働環境がかなり改善されました。

小規模な病院なので、その時在籍している医師の専門に大きく左右され、撮影内容も変わってきます。数年前は整形外科の撮影指示が多めの時もありましたが、今は女性技師しか在籍していない影響からかマンモグラフィーの指示の割合が多いように感じます。

以前マンモグラフィーの認定試験を受けに行った時には、デジタル化の流れで読影モニターもフィルムではなくなり高輝度モニターになっていました。歳をとるにつれ、その時代に適応するのも難しくなってくると思いますが、時代に取り残されないように精進していく所存です。

### コロナ患者看護を経験し思うこと



医療法人米沢記念  
桑陽病院  
一般病棟主任

河野 良和

新年明けましておめでとうございます。

当院は山口県のほぼ中央に位置する防府市にあり、内科・泌尿器科・整形外科・人工透析を行っている一般病床57床、療養病床42床の病院です。

未だ収まることのないコロナ禍で、当院においても昨年8月より、第5波に備えコロナ病棟を立ち上げました。立ち上げにあたり、山口県立総合医療センターと三田尻病院の感染看護チームの皆様には、快く病棟見学の機会をいただきました。その際に、病棟運営方法や第4波時の体験談などをご教示いただき、感染症の専門的な知識も乏しい中、何とか病棟を開設することが出来ました。

病棟開設後もスタッフは、自分たちの感染対策の不備で、院内感染が起きるのではないかなどの、不安とプレッシャーの中仕事を行っていました。他部署のスタッフからも感染対策に対する不安の声や質問が相次ぎ、精神的にキツイ時期もありました。しかし、そんな中「大丈夫、疲れてない?」「困ったことない?」などと声を掛けてくれるスタッフの励ましに助けられ、少しずつ前に進んでいく事ができました。また、不安と混乱を抑えながら、無我夢中で日々の業務をこなしていくうち、自分たちがコロナに対し、過剰すぎる恐れや反応をしていたことに気づきました。院内でも徐々にではありますが、コロナに対しての意識の変化を感じられるようになり、少しずつ病院全体でコロナ病棟をフォローする土壌が出来つつあると思います。

この数カ月間を振り返ってみた時、病院内外の様々な人たちに関わってもらい、助けられ、乗り切ることができた事に深い感謝の言葉しかありません。いつか、新型コロナウイルス感染症が、インフルエンザのように当たり前の病気になる日が来るまで、桑陽病院ワンチームで立ち向かっていきたいと思っています。

## 病院スタッフコーナー

### 薬剤師の負担軽減と質の高い薬剤業務を目指して



地方独立行政法人  
下関市立市民病院  
薬剤部長

かがわ  
香河 里江子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は一昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響が引き続き、どの医療機関も大変な一年であったと思います。そのような中、当院においては、コロナワクチンの基本型接種施設として、ワクチンの超低温冷凍庫での保管・管理、連携型接種施設への小分け・譲渡を行いました。4月に部長に就任した中での一大任務で、無事に終了してホッとしました。

その後は、薬剤師の退職・減少への対応に奔走しました。薬剤師の急な増員は叶わず、業務の縮小・効率化を図りました。

業務については、一つは院内の薬剤師で行っていた院外処方疑義照会の仲介を直接医師の方へと運用変更してもらいました。これは調剤室における薬剤師の負担をかなり軽減することができました。

それから、薬剤助手を増員してもらい、新たに持参薬鑑別のプレ入力と調剤のピッキングを開始してもらいました。これも確実に薬剤師の負担を軽減できました。

しかし、タスクシフティングが謳われる昨今において薬剤師はより幅広い活躍が求められ、現在は、それらに応えつつ、質の高い病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務の継続と効率化を目指して試行錯誤している状況です。

この原稿が掲載される頃には12月の病院機能評価受審も終わり、あとは4月に入職する薬剤師を待つばかりになっていることでしょう。厳しい状況ではありますが、一丸となって課題を克服し、薬剤師が希望と喜びを持って働いていけるような職場にしたいと考えています。

### 患者様とご家族に寄り添うセラピストを目指して



医療法人社団慈生会  
萩慈生病院  
言語聴覚士

しががうち  
社河内 恵

新年あけましておめでとうございます。

私は、山口県萩市にある回復期～慢性期病院で言語聴覚士として勤務しています。

対象は小児～成人の入院・外来患者様と、幅広く対応させていただいております。

小児の言語聴覚療法は、構音障害を主とし、就学前のお子様を中心に、口腔機能訓練や、構音訓練を行っています。市の保健師さんや、多職種からの相談を受けることもあります。

成人の言語聴覚療法は、摂食・嚥下障害や構音障害、失語症を対象としています。

言語聴覚士の分野である「飲み込み」や「言語」は、目には見えない部分であり、障害についての理解が得られにくいことが多いです。しかし、食べることや話すこと、人とコミュニケーションをとるといことは、人が生きていく上で、必要不可欠なことであり私は思っています。患者様と接していて、言えなかった言葉が言えた時、間違った発音が正しく言えた時、また、経口摂取が困難な方が少しでも食べることができた時の、患者様やご家族の笑顔はなにもものにも代えがたい喜びであり、私の原動力です。

私の恩師の言葉で、「臨床家は常に考え続けることが大事」という言葉があります。患者様にどう安全に食事を食べていただくか、どのように会話を楽しんでいただくか、常に考え、患者様・ご家族の気持ちに寄り添える言語聴覚士として、これからも日々精進していきたいと思っております。



## 部会コーナー

### 山口県病院協会 看護部長部会 第1回常任幹事会

日時 令和3年10月26日（火）14:30～16:00

開催場所 山口県総合保健会館 第2研修室

#### 【協議事項】

1. 令和3年度看護部長部会総会および研修会について
2. 令和3年度役員改選について
3. 看護職員を対象とする研修会の実施について
4. その他



### 山口県病院協会 看護部長部会 総会・臨時常任幹事会

日時 令和3年11月26日（金）10:30～12:00

開催場所 山口県総合保健会館 第2研修室

#### 【協議事項】

1. 看護部長部会役員の改選について
2. 看護部長部会運営規則について
3. その他



## 諸会議報告

### 令和3年度 第3回理事会

日時 令和3年11月12日（金）15:00～16:00

開催場所 セントコア山口

#### 【承認事項】

1. 令和3年度山口県病院協会収支予算の執行状況について

#### 【協議事項】

1. 第26回四県病院協会連絡協議会の議題について
2. 冬季医療経営講習会について

#### 【報告事項】

1. 第16回医療関係団体新年互礼会の開催中止について
2. 県行政委員等の推薦について
  - ・山口県医療対策協議会委員  
会長 三浦 修（再任）
  - ・山口県医療対策協議会委員 社会医療法人  
監事 尾中 宇蘭（再任）

3. 県各種委員会等の結果報告について

三浦会長

- ・第4回新型コロナワクチン接種対策会議

（10月7日）

神徳副会長

- ・山口県循環器病対策推進協議会 第2回心疾患部会（9月30日）
- ・山口県循環器病対策推進協議会（11月5日）

#### 【その他】

### 令和3年度 第3回情報管理委員会

日時 令和3年12月10日（金）15:30～17:00

開催場所 山口県総合保健会館 第2研修室

#### 【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について
3. その他

# お知らせコーナー

## 令和3年山口県選奨受賞（山口県病院協会推薦）

教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が11月19日、山口県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において、山口県病院協会常任理事の高橋 幹治 先生が受賞されました。

高橋先生は、平成5年から今日まで28年余の長きにわたり、医師として地域住民の健康の確保、推進に尽力するとともに、地域包括ケア、緩和ケア、精神病床、高齢者福祉施設の運営など、地域精神医療や高齢者医療の充実と発展に貢献されました。

その間、山口県病院協会理事、常任理事や山口県高齢者保健福祉推進会議の委員を歴任され、病院協会活動の充実・発展及び保健福祉行政の推進に尽力するなど、その功績は顕著であることにより、県選奨受賞となりました。心よりお祝い申し上げます。



山口県庁にて



選奨状

## 病院協会の主な行事予定

- |         |            |                |
|---------|------------|----------------|
| ○ 1月14日 | 第3回理事会     | (会場：ホテルニュータナカ) |
| ○ 1月26日 | 第1回総務委員会   | (会場：山口県総合保健会館) |
| ○ 3月10日 | 第4回情報管理委員会 | (会場：山口県総合保健会館) |
| ○ 3月    | 第4回理事会     | (会場：未定)        |

### 編集後記

明けましておめでとうございます。新年早々新型コロナの話題とはなりますが、現在の規制緩和の中、感染者数がこのまま減少するとは楽観できず、予測不能の第六波への懸念から受け入れ病床増の依頼が当院にも来ています◆景気回復を見ながらの感染防止対策の徹底はしばらく続きそうですが、収束の見えない現状では、地域の皆様の健康を守るためワクチン対策も含め未知の感染症に対する政策に躊躇せず協力するしかありません◆会長の挨拶にもありますように外来機能の分化・連携推進や医師の働き方改革への対応も（働くな・働けない改革といわずに）積極的に取り組む必要のある重要課題です◆皆様には平穏とは言えない一年が始まりますが、元気で健やかに過ごされます様お祈り申し上げます。(末兼 浩史)